

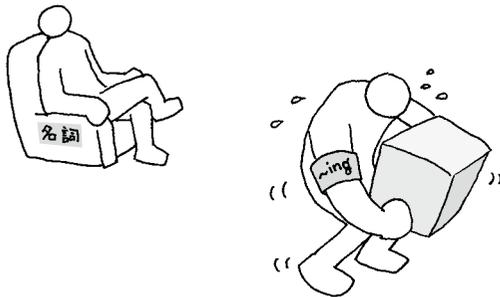
## 5-0 本来の品詞である名詞に代わるもの

英語の場合、ある品詞の働きを他の品詞が代わって行うことがよく起こります。英語の特徴の1つと言ってよいでしょう。

to不定詞や動名詞が主語や目的語として使われていることは、中学の文法レベルでもすでに学習してきているところです。この章では、こうした準動詞の名詞的用法についてはできるだけスペースを割いて検討してみます。

ほかにもさまざまな名詞句があって、それぞれが主語、目的語、補語などの名詞の働きをしています。名詞句だけでなく、接続詞がつくる名詞節も名詞句と同様な働きをして注意が必要ですし、また、「同格」表現も実にバリエーションに富んでいます。

こうした事項を学習していくと、文法というものが1つの品詞の事項にとどまらず、他の品詞とも相互に関わり合っていることがよくわかります。したがって、**文法を学習するときには、そうした他品詞とのつながりを意識して学習すると、効率的な学習ができることは確かです。**



## 5-1 the + 形容詞

〈the + 形容詞〉には名詞句として、(I) 形容詞が示す人々を総括して言う表現、(II) 抽象名詞の2通りの用法があります。

### (I) 形容詞が示す人々を総括して言う表現

- (1) The recession was harsh on **the young and the old** alike.  
(the young ≡ young people / the old ≡ old people)  
「不況は若者にも年寄りにもつらいものだった」
- (2) Tom Corley outlines a few of the differences between the habits of **the rich and the poor**.  
(the rich ≡ rich people / the poor ≡ poor people)  
「トム・コーリーは富裕層と貧困層の間の習慣の違いにつき、いくつかの概略を述べている」

ここでは〈the + 形容詞〉≡〈形容詞 + people〉なので(前者の方が文語的な表現という違いがあります)、これが主語になる場合には当然、次の(3)のように**動詞も複数で呼応**します。

- (3) **The young** (≡ Young people) **are** a little bit different from the rest of us.  
「若者たちは私たち他の世代とは少しばかり違っている」

このタイプの〈the + 形容詞〉には次のようなものがあります。

the blind 「盲人」	the deaf 「聴覚障害者」
the old 「老人」	the young 「若者」

the poor 「貧しい人」	the rich 「金持ち」
the dead 「死者」	the alive 「生きている人」
the jobless 「無職者」	the unemployed 「失業者」
the mentally ill 「精神病患者」	
the disabled/the physically challenged 「身体障害者」	

もう少し限定されたグループの人々を指す場合もあります。次の(4)では the injured は「その事故で負傷した人々」に限定されています。

- (4) After the accident, **the injured** were taken to hospital.  
「事故の後、(その事故の) 負傷者は病院に運ばれた」

しかし、どのような形容詞にもこの用法があるわけではありません。たとえば、the happy, the foreign, the disgusting など「～の人々」の意味には使えません。

また、次のようないくつかの成句では、〈the + 形容詞〉を単複両扱いとすることもできます。

the former 「前者」	the latter 「後者」
the accused 「被告」	the undersigned 「署名者」
the deceased 「故人」	

上は代表的なものですが、1 つ例文をあげましょう。

- (5) ... MLB Japanese pitchers Darvish and Kuroda: **the former was** nominated for the Cy Young Award this year.  
「...大リーグの日本人投手のダルビッシュと黒田：前者は今年のサイ・ヤング賞の候補にあげられた」

ところで、〈the + 形容詞〉の the が使われない場合もあります。数量形容詞の many, more や、所有代名詞などの後に続く場合、そして and, or を用いた対句や成句の場合です。次の例で、(7) と (8) は p.127 の (1) と (2) で the の付いた形をあげました。そのような〈the + 形容詞〉のほかに、rich and poor, young and old のような形で対句になっている場合、口調や慣用などのために the を付けない使い方があります。

- (6) There are **more unemployed** than ever before.  
「以前よりもっと多くの失業者がいる」
- (7) The government made equal opportunities for both **rich and poor** (alike).  
「政府は富める者にも貧しい者にも平等な機会を作った」
- (8) This is a game for **young and old**  
「これは若い人にもお年寄りにも向くゲームです」
- (9) Give me **your tired, your poor**, ...  
「我にゆだねよ、汝の疲れたる、貧しい人々を、...」  
(☞ p.131 『閑話休題』)

## (II) 抽象名詞

- (1) Do you think that **the true is** absolute or relative?  
「真実は絶対的なものあるいは相対的なものと思いますか」
- (2) I'm very much interested in **the supernatural**.  
「私は超自然的なものに非常に興味がある」

〈the + 形容詞〉は一般的な抽象概念を意味する抽象名詞として用いられることもあります。つねに単数扱いをし、文語(特に論文、小説、詩などの書き言葉)で使われます。

こうしたタイプに用いられる形容詞は特に哲学的な文章の中で